

## 【説明要旨Ⅱ】

「学校施設建物について」

・説明 学校運営課施設係 深谷 俊一 副主幹

### 1. 学校施設の更新の手法

- (1) 大規模改造工事
- (2) 長寿命化改修工事
- (3) 建替工事

### 2. 具体的な手法の説明

#### (1) 大規模改造工事

大規模改造工事は、通常校舎及び体育館であると3ヵ年で、校舎のみの場合は2ヶ年の計画で実施され、経年劣化の進行した校舎の内外の仕上げの改修、適切な教育環境の維持に必要な設備の更新などを中心に設計、施工される。

給食室が改修の範囲に含まれる場合もあり、主に床・壁・天井・建具の改修、照明・給湯・換気等設備の更新、或いは調理備品の買い替え、配置の見直しに伴う電源の整備などが行われる。

ある程度の環境整備は図れるものの、大規模改造工事においては防火や耐震などに影響する間取りの変更はできないため、給食室の拡張等はなく、現状維持が前提となる。ただし、ウエットからドライ運用への改善は可能である。

#### (2) 長寿命化改修工事

西東京市では、この改修手法での実績はないが、概ね建築後40～50年目に実施することになっている。同時期に複数校の建替工事を行う財政負担を考慮し、建替の代わりに、校舎の寿命を延ばすことを目的とした手法である。

大規模改造工事とは異なり、部屋全体の広さやある程度の間取り変更も可能なため、給食室の拡張が適えば、ドライシステムへの変更も不可能ではない。ただし、給排水設備等の制約があり、給食室の位置を変更することはできないため、現設置場所付近の余裕スペースの有無、運用に必要な通路・車両の出入口等の確保が条件となる。

#### (3) 建替工事

建替工事は、校舎が寿命を迎えた際に実施する手法であり、概ね築50～60年目の耐力度調査の結果に基づき、実施されることになる。

現校舎の配置にこだわることなく、敷地に対してどこに校舎を置くことが理想的か、それに伴い校庭の整形化も図れるため、基本プランを策定後に実施設計を行うことになる。

一例として、現在進行する中原小の基本プランの策定図面にもあるように、現在の教育方法やIT化に相応しい教室・管理諸室の広さや配置をゾーニングすることで、全てが一新されることになる。

中原小の給食室も、当然ドライシステムを想定した基本プランが策定されており、実施設計の段階になれば、実際の児童数(配食数)に相応しい面積の、詳細な図面が作成されることになる。